

を考えたらもっと自分自身を大切に
しなくてはと女の人に私も含め
て注意したい」

以上は、何人かの生徒の言葉である
が、多くの生徒は今まで気付かなか
った、また知らなかった性行動の男女に
おける動機の違い、日米仏の女子の自
己主張の相違点や、誤解していた性に
対する価値観などについて考え、そし
て理解してくれたようである。

(七) 実施後の問題点

・スライドでは「女子の性心理」を利
用したが「男子の性心理」の併用を
工夫すべきであった。

・男女共学のホームルームでは教材の
選択や活動形態に留意すべきであ
る。

・スライドのテンポが速く、深層心理
にせまることが困難な生徒もある。
・まとめは、男女に討論させた方が性
心理の理解に効果的だったかもしれ
ない。

(授業者) 現矢吹高校教諭 山崎浩

(三)

三 倫理社会における指導

(一) 本時の主題「愛情による人間関係」

(二) 本時のねらい

自分にとって愛とは何かを考えさせ
愛がどんな意味をもち、何が愛であり
愛がいかなる行為を導くかを考えさせ
る。

(三) 本時の指導過程(表2)

(四) 生徒の反応

①授業の感想 ②授業のなかで知り
たい「愛」についてーについてアン
ケートをとってみた。その代表的なも
のは次のとおりである。

①授業の感想

・「一般的なことばかり。先生の経験
や失敗談の方がためになる」
・「よくわからないことが多かった」
・「ためになるので、もっと話してほ
しい」

・「性の話をする時、先生が赤い顔を
したのを覚えてる。てれるな。」

・「週刊誌やテレビ、友達との話の方
がおもしろい」

②授業の中で知りたい「愛」について

・「男女の性心理や意識のちがいにっ
いて」

・「先生の高校時代に考えていたこと
を話してほしい」

・「異性との交際のしかた」

・「先生の一方的な意見でなく、生徒
との話し合いで友情や恋愛について
考えてみたかった」

・「性と愛について同年代の高校生が
どんな考え方をしているのか?」

・「恋愛論に関して、他の資料にはど
んなものがあるのでしょうか」

・「などの感想や意見が多くみられた。

(四) 反省と今後の課題

① 講義中心になっていた。

生徒の感想にも、生徒同志の話し合
い形式をのぞむものもあり配慮して
もよかった。

②資料作成の必要性

①授業の感想 ②授業のなかで知り
たい「愛」についてーについてアン
ケートをとってみた。その代表的なも
のは次のとおりである。

表2. 指導過程

	学習内容および活動	時間	指導上の留意点
導 入	(1) 「あなたは今、誰を、何を愛しているか」 (2) 「そのことが、あなたにとって、どのような意 味をもっているか」 (3) 「そのことは、あなたを、どんな行動に導くか」 以上のことを具体的に問いかけ、考えさせる。	5分	・各自の中で確認させ るようにし、雰囲気によっ ては各自に述べさせる。
展 開	(1) 愛の諸相について 「愛」という字のつくものを生徒に発表させる。 (2) 愛と情熱、恋との違いについて 愛は、恋や情熱とちがって、忍耐強く、育て るものである。 「愛」と「恋」、「情熱」は同じものなのか 違うものなら、どう違うのか考えさせ、発表さ せる。 (3) 性と愛について 異性を理解すること、性と愛について考えさ せること、性の社会性、倫理性について考える ことの3点にしばって、まとめる。 (4) 遠藤周作、吉行淳之介などの「恋愛論」から 関連する部分を紹介する。	35分	・愛にも、肉親愛、夫婦愛 他人愛など、数多くの形が あることに気づかせる。 ・愛情というもの自分の 生存にとって、どのような 意味をもっているかを考え させる。 ・性については単に欲求や 愛情の側面から考えるもの でなく、人間にとって性は 何であるかという点から考 えさせる。 ・内容がおとな向けのとこ ろもあるので、紹介する部 分を精選し、興味本位にな らないようにする。
ま と め	(1) 愛の意義についてまとめる。 愛がいかなる意味をもち、何が愛であり、愛がい かなる行為を導くかを確認する。 (2) 教科書の内容を一とおり読む。 (アンダーラインなど)	10分	・うわべだけの、形式的な ものにならないように、注 意する。
評 価	・愛の本当の意味を、理解させることができたろうか。 ・愛は、人間関係にとって果たす重要な役割であるということを理解されたらうか。		

四 おわりに

私たちは、学校教育活動の中で、先

(代表 小林暢夫)

遠藤周作、吉行淳之介、スタンダー
ルなどの「恋愛論」を引用したが、
話をするだけでなく、適当な資料を
作成して活用すると効果的である。
③愛の諸相について短い時間で理解さ
せることは難かしいことである。結
論を急がないで、生徒の日常生活の
場面で考える素材を与える態度がほ
しいと思う。
④他の教科との関連をはかるように
したい。
(授業者) 棚倉高校教諭 宗田愛一
郎)

ず自分の担当領域でできることから取
り組むことにした。それぞれの実践計
画を出し合って全体の指導計画を検討
し、さらに、生徒の実態についても調
査分析を試みた。その計画の作成や実
践の研修会を通じて、他の領域での指
導のねらいや内容について具体的に
互いに理解できたことは、次の実践へ
の足がかりとなったという意味で大き
な成果であった。今後は、これらの教
訓を生かして、各領域の実践をより組
織的、総合的なものとするための共同
作業も必要であり、今後も継続して、
性教育にかかわる問題の解決と実践に
努力してゆく。